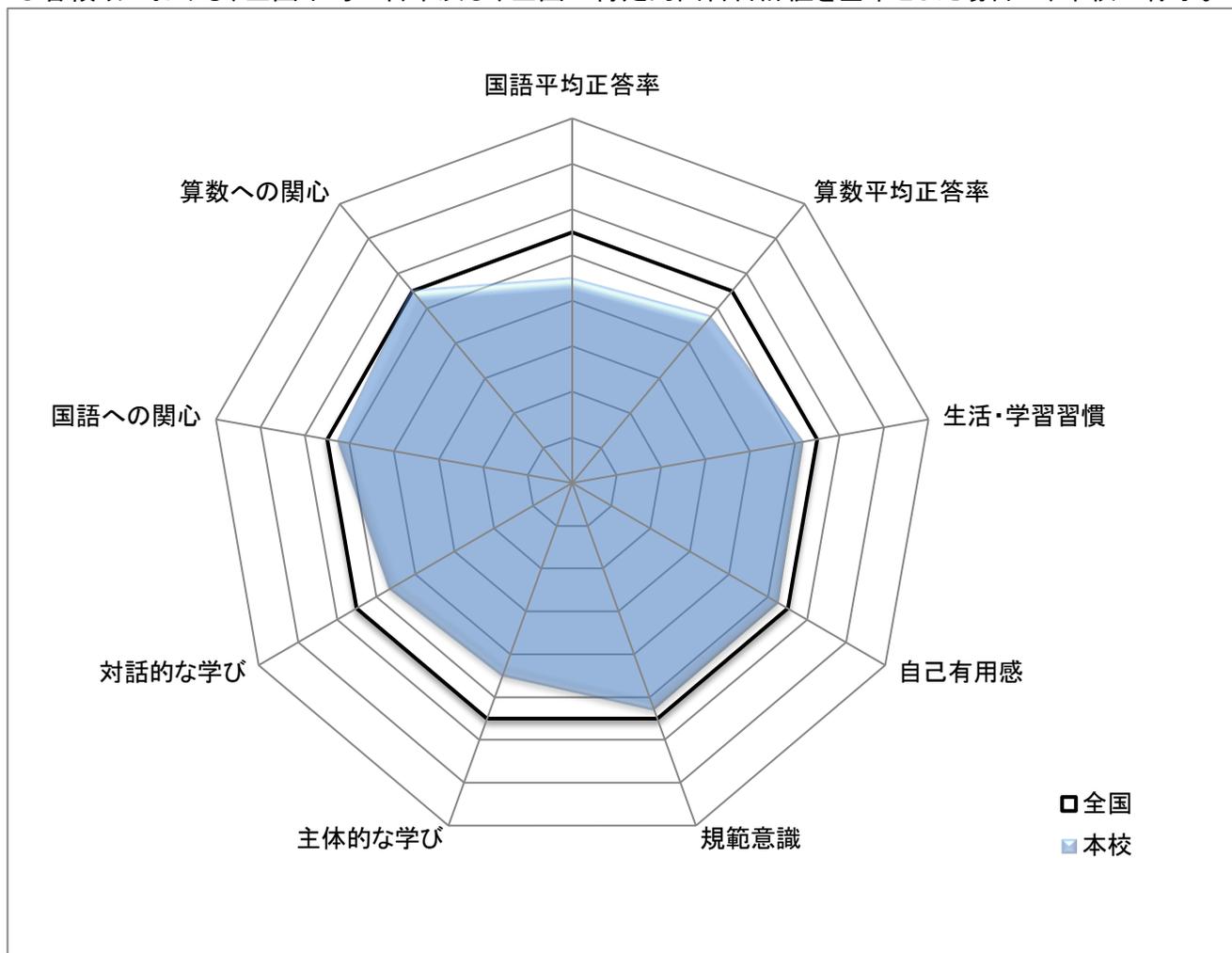


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

本校は、年々学力面において向上が見られる。今回の調査では全国平均を下回る結果だが、昨年度に比べ向上はしている。学力向上を支えるのは、児童の学習への興味・関心である。教師が常に「わかりやすく」「楽しく」行っている結果である。また、規範意識も高く、楽しい中でも学習規律が整い、落ち着いた授業が行われている。「主体的・対話的な深い学び」には、まだ届いていないが、いずれ全国平均を越えて行けると考える。

《授業改善のポイント》

児童は、すべての教科において興味・関心がある。教師はいかに子供の伸びる力を養っていくかである。当然授業を第一と考える。その授業において意図的・計画的に実施するために日々の研鑽を行っている。今求められている「自主的で対話的な深い学び」の視点からの学習・指導方法の改善を取り入れている。具体的には、各教科におけるペアや小グループでの「話し合い」「学び合い」「発表」等の学習活動の設定である。学級という集団の中で、自分の意見に対し、賛成なのか反対なのか、そのどちらでもない考えになるかもしれない。自分の役割を学び、規律を学ぶ。そうした中で初めて学級は集団になるとも言える。

《チャートの特徴》

- ・学習面を見ると、教科の正答率を見ると、全国平均を下回っているが、教科への関心は高い。現在求められている「主体的な学び」と「対話的な学び」も全国平均を下回っているが、意図するところが伝わっていないところが課題である。
- ・生活面を見ると、早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムはよかったです。早寝においてはやや乱れている子がいることがわかった。また、家庭学習においては、自分で計画を立てて行うよりも宿題だけの児童が多い。
- ・豊かな心の育成面では、規範意識(学校の決まりを守る子、いじめを許さない子、人の役に立ちたいと思う子等)の高い子が多いことがわかった。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者・地域の連携では、学校評価を見ると毎年高い評価をいただいている。学校はPTAをはじめ、地域の方々に学校は支えられて成り立っている。主な活動を見ると、地区委員や学校応援団による登下校時の見守りや図書ボラの方々による毎週水曜日に行う「本の読み聞かせ」等がある。